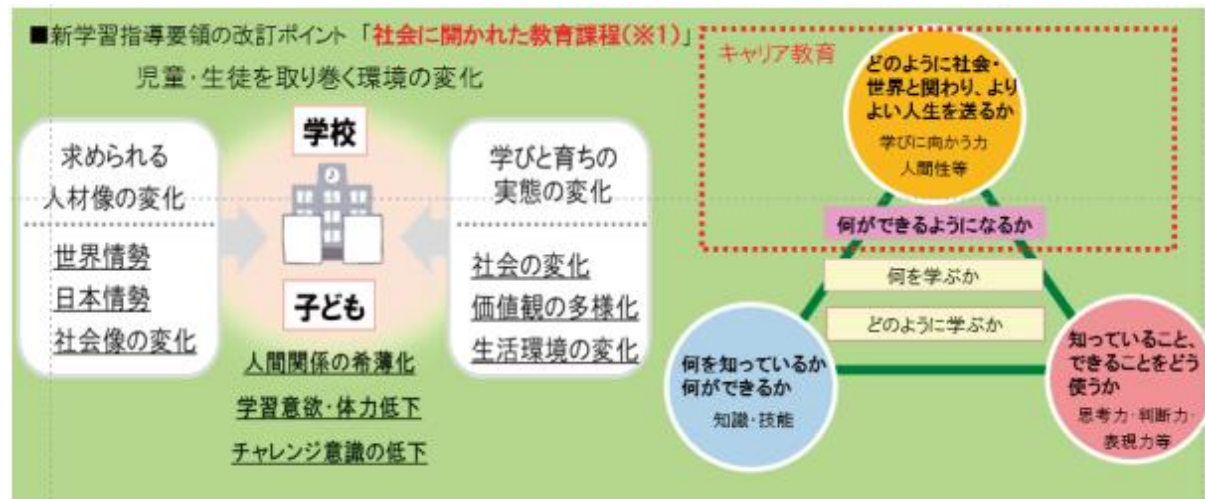


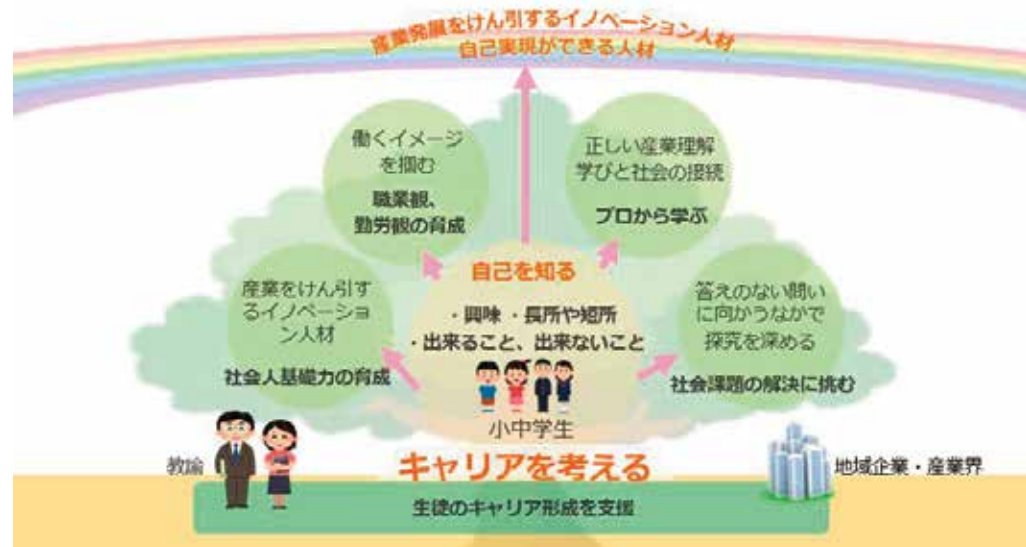
“社会”と“学校”の 学びの繋がり

新型コロナウイルス感染症の影響により、働き方やライフスタイルだけではなく、子ども達の学びにも大きな変化を与え、タブレットを活用した授業のスタイル（GIGAスクール）になる等、教育にも変化がみられました。また、グローバル化や人工知能の変化により、Society5.0の超スマート社会へ進み、先が見えない・変化のスピードが目まぐるしい新しい時代へ突入しています。2020年は新学習指導要領において、子どもの時に学んだことが大人になり、自分が行きたい道をどのように切り開いていくのか“生き方を学ぶ力を養う”ことも目的に改訂され、より一層社会と学校の学びの繋がりを児童生徒に伝えていく必要があると考えています。



日本の子ども達の課題として、文部科学省からは判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることにについて弱い面があることや、自己肯定感や学習意欲、社会参画の意識等が国際的に見て低いこと等が挙げられています。(※2)

新しい時代の子ども達に必要な資質・能力を育むためには、教育活動を更に充実することとして普段学校で学んでいる教科はどのように社会へ役立つのか教員からも日常的に伝えていくと共に、教員では伝えられない実際の産業界の現状や魅力を外部人材として社会に出て働いている大人を招聘し、講話や出前講座を体験することで、子ども達の興味関心を引きつけ、多種多様な人間関係を構築し学びの意欲が向上するのではないかと考えています。このことから学校が社会と接点を持ちつつ、多様な人々と繋がりを保つことはこれからの学びでは必要不可欠ではないかと考えます。



【参考・引用元】

(※1) 文部科学省：2023年の社会と子供たちの未来

(※2) 文部科学省：1. 「チームとしての学校」が求められる背景

産業を知る・学ぶ・理解するための発展例

ー 建設産業 発展例 ー

職業人講話	出前講座
事前学習 調べ学習・講話 2コマ～ ・建設産業とは ・建設に関わる仕事、建設産業の役割 ・建設産業の概要（土木・建築）や、職業の多様性	小3社会 ・地域の産業、消費者生活の様子 ・地域の地理的理解 ●話すこと、聞くこと ・互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら話す 小3～4国語
実施当日 ・建物を完成するまでの流れと職業ごとの役割 ・災害現場における建設産業の役割を伝える ・必要な資格、勉強や従事するまでの道のり 中学社会 地理 ・地域の在り方を、地域の変容、持続可能性に着目し、多角的・多面的に考察、構想し表現する 小5社会 ・自然災害から生活を守るための対策を理解する	・実際の仕事の一部を体験する 測量体験、建物の基礎作り 柱の組み立て方 等 ・IT技術を活用した建設現場での機器操作を体験 ・地域の災害が起こりそうな場所とその対策について必要な対策を考えるワーク 中学理科 ・質量変化の規則性 ・力の働き 小2 算数 ・測定 長さの単位、かさの単位について知り、測定の意味を理解する
事後学習 まとめ学習 ・これまで調べたこと、聞いたこと、見たこと、経験したこと等を振り返り、どのようなことを学んだかまとめる	中学国語 ・考えたこと、伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関連付ける ・目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫する

ー 物流・流通産業 発展例 ー

職業人講話	出前講座
事前学習 調べ学習・講話 2コマ～ ・モノが届くまでの仕組みや物流流通産業の概要や成り立ち ・業種と仕事の多様性・沖縄の物流流通産業の現状	小3～4国語 ●話すこと、聞くこと 関心のある話題を決め必要な事柄について調べ、要点をメモする 中学社会 ●地理的分野 地域の産業を成立させている地理的諸条件と関連付ける
実施当日 物流の時間や場所のギャップを埋める工夫 沖縄の地域がもつ優位性から物流流通産業の発展について説明する 中学公民 私たちと経済消費生活を中心に経済活動の意義を理解する 市場経済の基本的な考え方について理解する	荷物を複数運ぶためのコツ、スケジュール管理、ルート策定などを一緒に考えるワーク等 倉庫で荷物を管理する際の仕組みやIT技術を体験 小4算数 量と測定 面積について 数量やその関係を言葉、数、式、図、表、グラフなどに表したり調べる
事後学習 フィールド学習 2コマ～ ・校外に出て物流流通に関連する仕事を探してみる ・物流流通産業に従事する方々にインタビュー	中学校国語 ・異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめる ・自分の経験や知識を整理して考えをまとめ、語句や文を効果的に使う

● 学校側が産業界と連携する際のポイント ●

1 取り組みにおける学校のねらいや目的の共有

講話や出前講座を行う際、年間計画の中でどのような位置づけで取り組みたいのか、どのようなことを既に学んでおり、これから学ぶのか等、当事業のコーディネーターへ教えてください。学校の学びと繋げた取り組みを一緒に考えます。

2 子ども達の様子や課題感 等の共有

子ども達の普段の学校生活の様子や、活発・おとなしい、成長して欲しい部分等、子ども達の様子を教えてください。また、授業中に質問や発言が多い・少ない等も、当事業コーディネーターへ教えて頂けると、取り組みの進め方を考える材料になります。

3 職業人講師を交えての講話等の内容について認識合わせ

実施前には、実際に子ども達へ伝える内容について、職業人講師・学校・コーディネーターの3者間で認識合わせができると当日の子ども達へのフォロー等しやすくなります。また、認識合わせの場が持てることで、強調して伝えてほしいこと等話し合うことができます。

♪ 子ども達だけでなく、教員や保護者向けの取組も実施可能 ♪

① 児童生徒向け

知る 職業人講話

- ・仕事の内容や社会的な役割
- ・仕事に就くまでの道のり
- ・教科や行事等と関連づけた学び
- ・パネルディスカッション 等



体験する 出前講座

- ・プロの技術を体験、道具に触れる
- ・グループワーク
- (例) 観光プラン作成
- IT体験、調剤体験 等



② 教員向け

職業人からリアリティのある学びの機会を得て、今後の進路指導に活かしませんか？

- ・教育事務所等の研修や校内研修会等で職業人講師を交えた授業構築ワークやパネルディスカッションの実施



③ 保護者向け

子ども達の将来の選択肢を増やすため、保護者へも産業の魅力を伝えています。

- ・授業参観等で子ども達と一緒に伝えたり、親子企業見学等を実施。



● 金武町立中川小学校 ●

～ 『働く』ということと、職業への視野を広げる ～

◆講師名

＜情報通信産業＞
一般財団法人ツクル
大森 洋介 氏
(プログラミング教室を運営)

＜情報通信産業＞
株式会社プロトソリューション
松村 賢 氏
(デジタルマーケティング事業等運営会社)

● カリキュラム

- 松村氏
 - ・情報通信産業とは
 - ・仕事、働くとは
 - ・ビジネススキルの基本(名刺交換)
 - ・子ども達へメッセージ
- 大森氏
 - ・講師のライフストーリー
 - ・日々の勉強の大切さ
 - ・ITの魅力と可能性について
 - ・子ども達へメッセージ

● 取組みのPoint

- ・1つの産業から別会社の講師を招聘し、職業の視野を広げる。
- ・仕事のやりがいや魅力を知り、興味関心を高める。
- ・『働くとは』を考える機会にする。

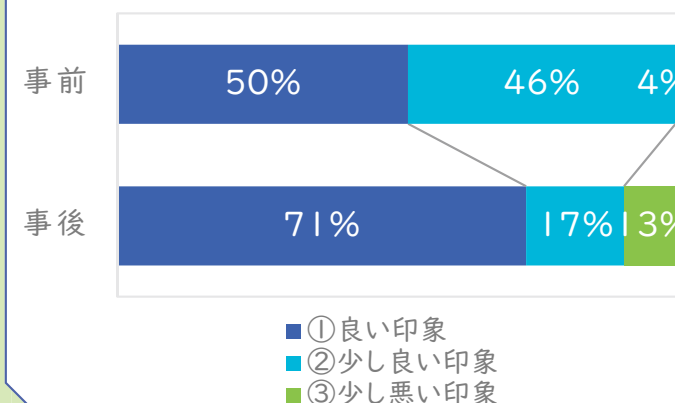


● 児童生徒の声(実施後の事後アンケートより記載)

- ・情報通信産業に興味を持って、これから活かしていきたいと思った。
- ・今、日本は人口が減っていることがわかった。AI・ロボットと仲良くする世界に僕達がする。
- ・こんなにもいっぱい仕事があると知ってびっくりしました。あまり興味のない仕事も少し調べてみたいです。
- ・やりたい職業の幅が広がったから良かった。
- ・今、AIとかが活躍している時期だから、AIのことやコンピューターのこととかを知ることができて良かった。
- ・情報通信産業がどんな仕事かわかった。
- ・最初は情報通信産業が何かがわからなかったから、とても詳しく知ることができてよかったです。
- ・わからなかったことがいっぱいあってびっくりすることもある、勉強頑張って仕事ができるようにしたいです。

◆中川小学校アンケート結果 「産業のイメージについて」

【情報通信】



講話前は情報通信産業について、「良い印象」「少し良い印象」合わせて96%の回答だったが、講話後には「良い印象」「少し良い印象」合わせて88%となっており、良い印象への回答は減っているが、児童からの声では、『情報が送られてくるのは情報通信技術のおかげと学んだ』という声が挙がっていました。講話後に産業イメージが少し悪いと回答した児童生徒は、情報通信産業に従事する際の心構え等、表面の楽しさだけではないことに気づいたことが背景にあると思います。

